

# 平成 20 年度 第 4 回日本家庭医療学会理事会議事録

日 時：平成 21 年 2 月 15 日（日）9:00～12:00

会 場：東京大学 医学図書室 3 階 310 室

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典（以下は、委任状による出席）葛西龍樹

理 事 朝倉健太郎、雨森正記、内山富士雄、大西弘高、大橋博樹、  
草場鉄周、小林裕幸、長 純一、西村真紀、伴信太郎、藤沼  
康樹、松下 明、横谷省治

監 事 亀谷 学

幹 事 福土元春

欠席者：理 事 前野哲博

監 事 山本和利

## 1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

山田代表理事より、2009 年 1 月 31 日現在の会員数について報告があった。

つづいて新入会者について承認された。

会員数：1,931 名（うち、医師会員 1,782 名）

入会者： 36 名（2008 年 11 月 1 日～2009 年 1 月 31 日）

退会者： 1 名（2008 年 11 月 1 日～2009 年 1 月 31 日）

復帰者： 0 名（2008 年 11 月 1 日～2009 年 1 月 31 日）

未納者： 36 名（2005 年 3 月 31 日まで納入済み、2008 年度末時点で未納の場合、  
退会となる人）

会費未納率：25%（2009 年 1 月 31 日現在）

また、4 月の会費請求時には、最終年度の会費を納めていただいた方に限り、自動的に新学会の会員として登録させていただく旨を案内する予定であることが報告された。

## 2. 平成 20 年度収支決算中間報告

山田代表理事より、平成 20 年度会計年度の中間報告があった。前回理事会以降の収支および年度末までの収支見込みについて説明があり、年度末の繰越残高は 250 万円余りが予想されることが報告された。

### 3. 常設委員会・部会報告

#### ◇ 編集委員会

長理事より、昨年12月に開催された3学会合同学会誌検討委員会について、年4回の発行を予定しており、編集委員にはコメディカルを加えること、J-STAGE（オンラインジャーナルのシステム）への登録を行うこと、次回の委員会は4月に開催する予定であることなどが報告された。

#### ◇ 広報委員会

松下理事より、広報委員会の活動について以下の報告があった。

##### ●会報について

予定通り年4回の発行を継続している。

##### ●患者一般向け出版物について

「医者からもらった薬を整理しませんか（仮題）」は企画中である。

##### ●学会HPについて

「家庭医療学会HPに関するアンケート」を実施した。今回の結果を踏まえて内容等を改善していく予定である（結果は学会HPの会員専用ページに掲載）。

##### ●市民向けHPについて

前回のアンケート結果により、家庭医療に関する会員向けの情報や一般市民向けの情報を整理していく必要があるというニーズを確認した。それに伴い、約10名の協力委員を組織し、活動を始めたところである。

また、後期研修プログラムの第一期修了生が誕生することや試験等に合わせたメディアへの広報活動を行うことについて提案があった。その一環として夏期セミナー開催時に認定賞の授与式を行う提案があり、メディアへの働きかけを含めて、今後、メール等で調整を行うこととなった。

#### ◇ 生涯教育委員会

伴理事より、生涯教育委員会の協力委員を募集した結果、多くの応募があったことが報告された。また、出版活動としては『SCENE』を改訂して増刷したことが報告された。雨森理事より、第16回生涯教育ワークショップは、参加者約400名（前年比約50%増）で、40万円程度の黒字となったことが報告された。次回も同じ天満研修センターで11月7～8日に開催する予定であることが述べられた。また、昨年9月に開催されたサテライトワークショップは、赤穂市民病院の一瀬先生が担当され、盛況だったことと、次回

は東海地区・名古屋での開催を予定していることが報告された。

◇ 研究委員会

大西理事より、臨床研究初学者のための勉強会の開催概要等について、本日午後の会議で議論されることが報告された。学会賞の公募については、昨年と同様の基準で公募を行うことが確認され、学会賞の選考委員は研究委員メンバーで対応する予定であることが報告された。

◇ 倫理委員会

西村理事より、11月以降の申請が2件あり、うち1件は審査を終えたことが報告された。

◇ 後期研修委員会

竹村副代表理事より、家庭医療専門医認定試験及び3学会合同認定制度検討委員会の進捗状況について報告があった。認定試験の実施にかかる諸経費の扱いについて質問があり、試験に関する事業は、今、取り決めを作成しつつある段階であるとの回答があった。

◇ プログラム責任者の会代表

プログラム責任者の会の高木代表より、活動報告があった。次回のプログラム責任者の会は2月21日に予定されており、3学会の合同や専門医試験、各地域でのプログラムの交流の進め方などを中心に議論を行うことが報告された。

山田代表理事より、プログラム責任者の会に関連する事業については、事業計画書を提出することによって理事会で審議可能との発言があった。

◇ FD委員会

草場理事より、FDの在り方や位置づけ、プログラム責任者の会や指導医認定、プログラム認定、専門医認定との連動について、委員会のメーリングリスト上で議論を進めていることが報告された。また、指導医養成ワークショップの事業収入は参加費収入だけではなく、プログラム登録料収入も同事業の収入の一つとして位置づけていることが確認された。

◇ 若手家庭医部会

朝倉理事より、第4回冬期セミナーは昨日から本日にかけて開催されており、100名の参加者を迎え順調に進んでいること、東京大学の会場をお借りしたことで運営的にも黒

字が見込めることが報告された。

また、来年度の冬期セミナーは、同じプロジェクトメンバーで2010年2月13-14日に開催することを予定していることが述べられた。

その他、若手家庭医部会では、後期研修プログラム修了生の動向調査を中心としたアンケート調査を新規事業として考えていることが報告され、理事会に提出された事業計画の内容で承認された。

山田代表理事より、オブザーバーとして後期研修医が理事会へ出席することが提案され、1名が出席することが承認された。

#### ◇ 学生研修医部会

小林理事より、第20回夏期セミナーの会計報告があり、収支差額が95,192円（学会補助80万円、ポスターセッション15万円の収入を会計に含む）となり、特に例年と比べて懇親会費が多くなったことが報告された。

第21回夏期セミナーは、2009年8月7日（金）～9日（日）に群馬県の「ホテル磯辺ガーデン 舌切雀のお宿」で開催を予定しており、若手家庭医部会の協力を得ながら、学生だけでなく研修医も参加しやすい企画を考えていることが報告された。

### 4. ワーキンググループ報告

#### ◇ 患者教育パンフレット作成ワーキンググループ

松下理事より、予算の都合により専門医へのチェックは省き、イラストなど視覚面に重点を置いた制作で進める方向であること、この1年間で100程度のパンフレットを完成させることを目標としていることが報告された。

### 5. 平成21年度事業計画および予算について

山田代表理事より、来年度の事業計画及び予算について説明があり、今回予算計上されていない倫理委員会の委員会開催について再検討することになった。また、研究助成金事業費について、来年度は日本家庭医療学会としての最終年度となる予定であるが従来通り公募を行うかどうかについて審議され、予算計上を行うことで承認された。その他、の事業計画および予算について、承認された。

### 6. 3学会の合同について

山田代表理事より、3学会合同について以下の報告があった。

- ・ 毎月1回のペースで、3学会の代表が集まり審議を続けており、新学会は一般社団法

人として登記した後に公益法人の申請を行う方向で進んでいる。

- ・ 代議員制や選挙方法（直接選挙・間接選挙）については協議中である。
- ・ 都道府県支部会や委員会を設置する方向である。
- ・ 新学会の学会名称と専門医の名称は、まだ検討中である。

新学会の学会名称と専門医の名称について意見交換が行われた結果、次回の3学会合同会議では、日本家庭医療学会として専門医の名称を「家庭医療専門医（通称：家庭医）」とすることを強く要望し、学会名称については「日本プライマリ・ケア学会」等、特に家庭医療という名称にこだわらない旨の意見が大勢であった。

#### 7. 家庭医療専門医認定試験の概要や提出書類について

竹村副代表理事より、家庭医療専門医認定試験の概要と提出書類について説明があった。大橋理事より、提出書類の一つである「研修記録書」の内容について説明があり、一部修正を加えたうえで提出書類として公開することになった。また、申請書の提出期限は4月末日とすること（注：その後の理事会メーリングリスト上での議論によって「4月1日～5月25日（必着）」とした。）、書類審査のルーブリックを公開する方向で検討することが確認された。

#### 8. 後期研修プログラムの申請および審査について

平成21年度後期研修プログラムについて14プログラムから申請があり、審査の結果、6プログラムが認定可、8プログラムが再提出となった。再提出となったプログラムの再審査は、メーリングリスト上で行うことが確認された。

また、申請書類について、診療所機能の施設の説明を記載する欄が必要との意見や、「研修場所」の記載欄について修正案が出され、来年度の申請書類に反映させることが確認された。審査過程で問題提起された家庭医療の研修の場としての質のチェックや担保については、今後の検討課題となった。

#### 9. 第24回（平成21年）学術集会について

雨森理事より、開催概要及び進捗状況について以下の報告があった。

- ・ 5月30日、31日に国立京都国際会館にて開催。
- ・ 参加登録は開始されている。
- ・ ワークショップへの参加登録は、内容が決まっていないワークショップがあるため、申込は開始されていない。

また、以下のことが審議され、承認を得た。

- ・ 発表者の会員資格について、筆頭演者のみ会員であることを条件とする。
- ・ 後期研修プログラム紹介は従来通り登録料を徴収して行い、募集要項については詳細が決まり次第、プログラム責任者メーリングリストにてアナウンスを行う。
- ・ 合同大会の会計は、各学会で按分する。
- ・ 理事会開催時間が短すぎるため、開催時間について調整を行う。

#### **10. 新学会の第1回学術会議について**

山田代表理事より、2010年5～6月に、東京国際フォーラムで開催する予定で進んでいることが報告された。

#### **11. 平成20年度 日本家庭医療学会 研究補助金について**

大西理事より、応募が1件のみであったことが報告された。審査方法については、研究委員会でまず検討を行ったうえで、メーリングリストで結果を報告することになった。

#### **12. 特別賞（田坂賞）について**

内山理事より、今回の田坂賞は西伊豆病院院長の仲田和正先生に決定したことが報告され、来年度も田坂賞選考を行うことが述べられた。

#### **13. その他**

内山理事より、田坂賞選考過程で当学会理事であった白浜雅司先生を何らかの形で表彰できないかとの意見が上がったことが報告された。この件について、第24回学術集会の際に白浜先生の追悼コーナーを設けることと表彰盾を贈呈することが決定し、内山理事が担当することになった。